

2022年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答内容

2021年11月18日(木)に開催した、弊社「2022年3月期第2四半期決算説明会」の中で行われた、主な質疑応答内容について、以下記します。

なお、記載内容については、質疑応答内容をご理解いただきやすいよう、表現の変更や加筆・修正を行っております。

問1. 原材料市況や物流費高騰の影響額を具体的に知りたい。

答1. 前年実績と比較し、原材料市況の影響額は、上期22億円、通期累計で69億円を見込んでいる。主には、銅・鉄・樹脂で大きな影響が出ている。物流費については、前年実績比で上期25億円、通期累計で34億円の増加を見込んでいる。主に、アジアエリアのロックダウンに伴う、グループ内取引におけるエア便の増加がある。

問2. 御社における半導体不足による仕入れ価格の影響額を知りたい。

答2. 影響額は通期で8億円。下期から影響が拡大すると見込んでいる。

問3. 各自動車メーカーから販売台数の下方修正が発表されている。御社、修正計画の前提台数を教えてほしい。

答3. 例として、主要なお客さまである本田技研工業様は、販売台数を420万台と発表された。弊社が計画の前提とするのは、生産台数。具体的な数字は申し上げられないが、生産台数は、各自動車メーカーが発表した販売台数を上回ると見込んで、修正計画を立案した。

問4. 撤退を予定されている、ドアミラーと四輪ランプ事業の影響額を知りたい。

また、この先の受注状況など中長期な成長視点での見解をいただきたい。

答4. ドアミラーと四輪ランプ事業の売上高については約100億円。採算については、具体的な数字は申し上げられないが、この事業に関わる固定費の削減とセットで、事業譲渡の効果を今後出していく。

この先の受注状況については、いったん選択と集中という考えで受注を行っている。しかし、自動車が大きく変化する局面でもあるので、お客さまのベネフィットを商品魅力に盛り込み提案している。この流れに関しても、お客さまにご理解をいただいている印象を持っている。

問5. 自動車メーカーから出される急な減産に対する、対応策を知りたい。

答5. マーケット自体は購買ニーズが高いので、弊社の在庫が増えても解消できるという大きな流れは変わらないと思う。ただし、在庫を消化するまでの期間が長くなれば、財務面への影響も出るので、下期からは生産調整等を行い、在庫を消化するとともに、増産に対する人件費や経費の削減に結び付けていく。